

科目ナンバリング		U-LAS01 10003 LJ38							
授業科目名 <英訳>	日本史II Japanese History II			担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 吉江 崇				
群	人文・社会科学科目群		分野(分類)	歴史・文明(基礎)		使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義(対面授業科目)		
開講年度・ 開講期	2026・後期		曜時限	月2/月3		配当学年	全回生	対象学生	全学向
[授業の概要・目的]									
<p>【日本古代の国家と政治 - 奈良時代の政治・制度 - 】 日本における古代国家の様相を政治史という側面から把握し、古代日本の特質について理解することを目的とする。今期は、律令国家が制度的に完成した7世紀後葉から8世紀後葉にかけての政治動向を取り上げ、先行学説を紹介するとともに批判的に検証を行う。こうした作業を通じて、国家の様相やその変遷を客観的に捉える視座を養うことを目指す。</p>									
[到達目標]									
日本古代史における正確で幅広い知識を獲得するとともに、これまでの研究の流れを自分の力で整理し、それらを客観的・批判的に把握して、自らの歴史像を組み立てるための技術を習得する。									
[授業計画と内容]									
7世紀後葉に成立した日本の律令国家は、古墳時代以来の伝統を、唐から導入した先進的な律令制度を基軸に合理化し、固定化することを通じて形づくられた国家だった。今期は、そうした日本の特質を把握することを目的に、律令国家の支配が最も充実したと考えられる奈良時代について、その政治動向を整理する。まずは、支配の拠点となる宮都の様相を概観し、空間的な視点から律令国家の成立について考える。次いで、律令国家の中核を担った藤原氏の特質を明らかにし、その上で、貴族や仏教との関係から、奈良時代の天皇の位置を考察する。最後に、奈良時代後半に起きた恵美押勝の乱と、それにつづく道鏡の政治に関して分析し、奈良時代から平安時代への政治の展開を展望する。									
第1回 イントロダクション - 唐の律令と日本の律令 - 第2回 古代宮都の変遷(1) 第3回 古代宮都の変遷(2) 第4回 藤原氏の登場(1) 第5回 藤原氏の登場(2) 第6回 貴族政権論とは(1) 第7回 貴族政権論とは(2) 第8回 大仏の造立と聖武天皇(1) 第9回 大仏の造立と聖武天皇(2) 第10回 恵美押勝の乱をめぐって(1) 第11回 恵美押勝の乱をめぐって(2) 第12回 法王道鏡の権威と権力(1) 第13回 法王道鏡の権威と権力(2) 第14回 総括 《期末試験》 第15回 フィードバック									
----- 日本史II(2)へ続く -----									

日本史II(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

期末試験（筆記）にて成績評価する。

[教科書]

使用しない
授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

シラバスなどから授業の進行を確認し、各回の授業内容を想定しながら予習をすること。

[その他（オフィスアワー等）]

授業は講義形式で行う。

[主要授業科目（学部・学科名）]

総合人間学部